

中国語と英語の教授法に関する比較研究: 発音指導法を中心に

著者名(日)	紅麗
雑誌名	研究紀要
巻	10
ページ	91-100
発行年	2009-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1084/00000283/

中国語と英語の教授法に関する比較研究 —発音指導法を中心に—

Comparison of Chinese and English in Teaching
----- Focusing on Phonetics

紅 麗 *

Hong Li

抄録

中国語と英語の発音記号表記はほぼ同じである。このことが原因で、しばしば学習者に誤認識を与え、あるいは発音を互に混同する問題を引き起こす。本稿では、この問題解決の試みとして、両言語それぞれの発音体系の特徴、および発音指導上の類似点と相違点を比較検討した。その結果、両言語に共通に適用できる発音指導法が少ないことが判明した。また、それぞれの言語独自の発音上の特徴を考慮した指導法に工夫を加えることこそが、この問題の緩和に効果があることが示唆された。

Abstract

Learning pronunciation is the basic part of learning a foreign language. To speak an authentic foreign language, learners should have a good understanding of its feature of the phonetic system. Chinese and English have the same writing of pronunciation symbol, which often makes learners confuse phonetics with each other. In this paper, contrastive studies of English and Chinese phonetics in teaching are presented to find good ways to solve the confusing problem of phonetics between the two. As a result, it has been clear that the methods of teaching phonetic being applicable to both English and Chinese are limited. Special methods of teaching in phonetics to every feature of the two languages should be very important to require more efforts. Learners should be taught, to every difference, in different methods. This is the effective way for the learners to avoid the phonetic confusion between Chinese and English.

1 はじめに

中国語あるいは英語を外国語として勉強する学習者にとって、最も難しいのは発音の習得と言われる。

* 関西国際大学教育学部

その教授者にとってもいかなる方法により発音指導の効果を向上させるかは、長年の共通課題であろう。中国語の発音と英語の発音の記号表記はほぼ同じであることにより、しばしば学習者に誤認識を与え、あるいは発音を互に混同する問題を引き起こすことが指摘されているが、効果的な対処法がまだ存在しない[1]。本研究の目的は、この問題に対処する試みとして、教授者の立場で有効的な指導法（想定される受講対象は、中国語あるいは英語を外国語として学ぶ学習者）を検討することにある。そのために、本稿では、まず両言語それぞれの発音体系の特徴、および発音指導上の類似点と相違点を整理する。次に両言語の発音上の特徴、およびそれらの類似点と相違点を比較検討することにより、効果的な指導法を示す。

2 中国語と英語の発音の特徴とその比較

2.1 中国語の音節構造

中国語の音節は、「声母」と「韻母」に大別される。声母とは音節の先頭につく子音のことで、全部で21ある。韻母とはそれ以外の残りの部分で、ここに母音が含まれる。韻母はやや複雑で、さらに「介音」「主母音」「尾音」の3つに分けることができる。そして音節に声調をつけてはじめて、ひとつの意味の持った漢字の発音が構成されるわけである。

先頭につく子音（声母）がないもの、介音を欠くもの、尾音がないもの等、さまざまなタイプの音節がある。しかし、主母音だけは必ず備わっている。韻母（母音）には以下の通り3つの型がある。

- 1) 単母音（主母音）： a o e i u ü
- 2) 複母音： ai ei ao ……
- 3) 鼻母音とそり舌母音（-n -ngをもつ母音）： an en ang eng

単母音は基本となる六つの母音。長く引き延ばして発音する。

- a 日本語の「ア」よりも口を大きく開く。
- o 日本語の「オ」よりも唇を丸め、突き出すようにする。
- e 唇を左右に引き、日本語の「エ」を発音する形で、のどの奥から「オ」を発する。
- i 日本語の「イ」よりも唇を左右にキュッと引く。
- u 日本語の「ウ」よりも唇をずっとすぼめて丸くし、前に突き出すようにする。舌は奥に後退する。
- ü 唇を押しつぶしたようにすぼめ、日本語の「ユ」を発音する形で、「イ」という。舌は前にせり出す感じである。

子音（声母）は全部で21ある。子音の種類（唇音とか舌尖音など）の並べ方は、表1の通りである[2]。子音は、左から右へ、無気音、有気音、それ以外の子音、という順番に配列されている。無気音と有気音という区別は、日本語にも英語にもない中国語独特のものである。

表1 中国語の子音一覧表

呼気 部位	無気音 (無気)	有気音 (有気)	鼻音	摩擦音 (無音)	摩擦音 (有音)	側面音
唇音	b	p	m	f		
舌尖音	d	t	n			l
舌根音	g	k		h		
舌面音	j	q		x		
そり舌音	zh	ch		sh	r	
舌歯音	z	c		s		

2.2 英語の音節構造

英語学習においては、特に初期段階における発音習得の善し悪しは、その後の英単語の正確な発音、乃至英語によるコミュニケーション全般に与える影響は大きい。

英語の母音は表3に示す通り20種類もある。母音はその言語の音の一番原始的な単位であるが、同じレベルの単位で母音に対応する音に子音がある。母音と子音の違いは主に「発音方法」、「音の響き」、「音節」の三つに現れる(表2)。英語の母音は、舌の高さ、舌の位置、口の筋肉の緊張、唇の丸め具合、という4つのポイントに分類される(表3) [16][21]。

子音の発音を決めるのは、表4に示すとおり、発音の位置、発音の種類、有声音か無声音か、という3つのポイントである [11]。

表2 母音と子音の違いの現れ方

	子音	母音
発音方法	唇、舌、喉などで息の流れをさえぎることで発音する	基本的に息はさえぎられない口内のどこかで発音するかで母音の種類が変わる
音の響き	響きが小さい	響きが大きい
音節	基本的に音節の中心にはならない	音節の中心となる

表3 英語の母音一覧

		前	中	後
高	緊張	[i:]		[u:]
	緩	[i]	[iə]	[ʊ] [ʊə]
中	緊張	[eɪ]	[ə] [ə:] [əu]	[oʊ]
	緩	[e]	[ʌ] [ɛə]	[ɔɪ] [ɔ]
低		[æ]	[aɪ] [aʊ] [ɑ]	

表 4 英語の子音一覧

		両唇音	齒間音	唇齒音	齒茎音	齒茎口蓋音	軟口蓋音	
閉鎖音	無聲音	p			t		k	
	有聲音	b			d		g	
摩擦音	無聲音		f	θ	s	ʃ		
	有聲音		v	ð	z	ʒ		
破擦音	無聲音					tʃ		
	有聲音					dʒ		
鼻音		m			n		ŋ	
そり舌					r			
側音					l			
半母音	w					j		
								h

1.1 中国語と英語の発音の比較

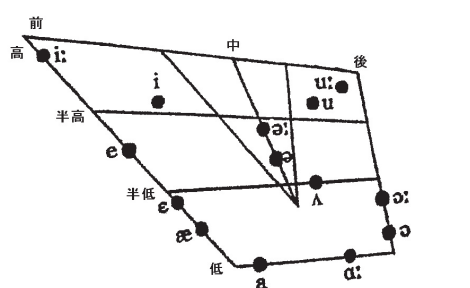
1. 両言語発音の類似点

- (1) 音節の構造は同じで、母音と子音の二つの部分から構成される。
- (2) 発音するときは子音優先、あるいは中国語と英語は子音優先の言語と言える。

2. 両言語発音の相違点

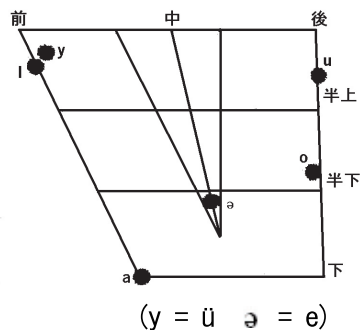
- (1) 図 1 と図 2 に示すように、英語と中国語とでは、母音を発音する際に、舌の位置と高さが異なる。

図1 英語の基本母音, 単母音



([ɛ]と[a]は複母音[ɛə]、[aɪ]、[aʊ]の中のみ現れる)

図2 中国語の基本単母音



(2) 子音の比較：

中国語と英語の子音を同一の表（表5）にまとめた。ここで、○は中国語の子音、△は英語の子音をあらわす。表5からは、両言語の子音を発する際の舌の位置と口から音を送り出す方式の類似点と相違点が見える。

表5 中英子音比較表

呼気 部位	閉鎖音	摩擦音 有音	摩擦音 無音	破擦音	鼻音	そり舌	半母音	無気音	有気音	側音
唇音	△		○		○△		△	○	○	
舌尖音					○			○	○	○
舌根音			○					○	○	
舌面音			○					○	○	
舌歯音								○	○	
唇歯音		△	△							
歯間音		△	△							
歯茎音	△	△	△		△	△				△
歯茎口蓋音	△	△	△	△			△			
軟口蓋音					△					
そり舌		○	○					○	○	

3 中国語と英語の発音指導法とその比較

3.1 中国語発音指導法

一般教養課程における中国語教育は、少ない授業数と中国語の言語学的特色から、その目標を十分に達成しているとは言い難い。以下では、主に筆者が中国語の授業の中で実践している発音指導法を中心に述べる。

① 声調付き母音の発音指導法

声調の習得は、中国語の発音学習において学習者が最初に難しさを感じる学習課題である。この声調は中国語の発音特有なものであるため、学習者の非声調言語の影響を考えなければならない。例えば、日本語を母語とする学習者の多くは中国語の声調、四声に対し戸惑いを感じることもあるため、発音学習の授業の最初から教える必要がある。単純に四声を教え、学生に発音の練習をさせても、練習のモチベーションが長く続かない。そこで、有効な方法として、まず、四声の仕組みと特徴を解説してから、その後単母音と複母音を学習するとき、母音を一つずつ用いて、四つの声調を付けて、四つの発音として学生と発音の練習をすることが考えられる。繰り返し練習することで、学生たちは自然に四声を付けて発音の練習をすることになる。

この指導法を利用する一つの理由は、中国語発音声調符号の位置は全部母音の上に付いており、一つ

の漢字は必ず声調付きの母音をひとつ含む点にある（軽音を除く）。上記のように、漢字の発音記号（ピンイン）の継続的な練習により、学習者は徐々に漢字を発音記号に沿って正しく発音できる効果が期待される。

②英中母音発音の対比指導法

ほとんどの中国語学習者は、先に英語の学習を経験している。発音記号の表記方法においては、英語と中国語はほとんど同じであるため、こうした学習者は、中国語の発音記号を学ぶ際に、既習の英語の発音記号と混同してしまうことがある。この問題を解決するためには、両言語の母音発音の口の中での舌の位置を詳しく比較し（図1、図2参照）、相違点を学生に実際の発音を比較して、明確に示し、体得してもらいながら、中国語母音発音の練習を行う方法が効果的だと考えられる。この方法を忠実に実践できれば、学習者は英語母音の発音の影響から解放されると同時に、中国語母音発音の感覚を確立し、比較的早くかつ正確に発音方法を体得できることが期待される。

③母音後置による子音発音指導法

中国語子音の発音は、舌の位置や息の出し方がポイントになるが、子音を単独で発声した場合、聞き取りにくく不便である。

そこで、便宜的に子音の発音を練習する際には、その後ろに母音を付けて発音する方法が考えられる。例えば、母音「o」を後置する場合、「po, mo, fo」のようにひとつの音節として発音すると分かりやすい。ここでなぜ a ではなく o を付けて発音練習するかというと、「b, p, m, f」は唇を使う発音なので、口を大きくあける a よりも口を丸める o を付けた方が自然で楽に発音できるからである。つまり、「a」よりも「o」のほうが「b, p, m, f」と相性が良いというわけである。他の子音についても、同様に発音練習のときはそれぞれ相性の良い母音と組み合わせるとよい。

中国語と英語では、母音よりも子音のほうが強い。このため、中国語を発音する際には、まず子音本来の口の形を作って子音を発音し、その後続けて母音を発音する。中国語の子音は、日本語の子音の1.5倍から2倍の時間をかけるつもりで、ゆっくり発音することになる。中国語子音の発音に時間をかけるという特徴はこの指導法を用いる所以の1つである。

④子音の無気音と有気音の発音指導法

子音の無気音と有気音は、日本語や英語にはなく、中国語の発音の特徴の一つである（表5）。そのため、指導する際には、それなりの工夫が求められる。例えば、まず発音要領、および無気音と有気音の区別方法をひと通り解説する（表1）。次に、小さく短冊状に切った紙を指でつまんで唇の前に垂らして、「bo, po」と発音してみるとよい。正確な発音であれば、どんなに大きな声で「bo」と怒鳴っても、紙は微動だにしないはずである。逆にどんなに小さなヒリヒリ声で「po」と発音しても、紙片はホーというノドをこする吐息の風圧で大きく動くはずである。

3.2 英語発音指導法

周知の通り、世界中で外国語として英語を選ぶ学習者が一番多いとされる。英語の発音は、学習者の母語と比べてどう違うのか、口の形、舌、唇の位置、動き、喉の状態、息の出し方、とめ方などを具体的に比べながら指導するのが効果的であることは言うまでもないが、現実はずしもそのように行われているとは限らない。以下では、筆者が実践しているものも含め、また中国語のそれとも対比しながらいくつかの発音指導法についてまとめる。

①英語母音の発音指導法

英語の単母音は短母音と長母音に区別される（図1参照）。短母音と長母音とでは、口の中における発音の位置は若干異なる。例えば、「u:」と「u」は日本語の長母音とは違い、短、長母音を区別しない中国語のそれとも異なる。こう言った点については学習者にきちんと解説したうえで、正しく発音できるように繰り返し練習することが求められる。

英語の二重母音はこれらの短母音を組み合わせ、2音1セットの母音である。二重母音の発音上の特徴は、前の短母音の発音から後の短母音までできるだけ滑らかに移行させる点にある。前の短母音の発音が終わる時点の口の形が後の短母音の発音時の形である。単母音の発音が正しくできている学習者は、この点に留意しながら練習をすれば、二重母音の発音の習得はそれほど問題にならないはずである。ただ、日本人学習者の場合は、英語の二重母音に対する理解においては、日本語の二重母音の影響がかなりあると思われる。この点を考慮して、英語には同じ単母音二つ以上を重ねて表現する複母音はないことを学習者に先に教えて意識させながら練習させることが望まれる。

②英語の子音の発音指導法

英語の子音は無声子音と有声子音の区別がある（表4参照）。有声子音は声帯を振動させるが、無声子音は声帯を振動させない。日本語には無声子音がないため、英語の無声子音が一つの音として独立していることを日本人学習者にははっきりと説明することが必要である。

中国語や英語では母音よりも子音のほうが強い。この点においては、母音が強力な日本語とは違う。日本語では子音と母音が常に1セットとなっているために、日本人学習者は英語の子音と母音をセットで発音しようとする傾向がある。そのため、言う必要のない母音まで英語の子音の後にセットで発音してしまう現象が見受けられる。同じように、中国人学習者は、中国語の子音の後に常に母音が付く特徴の影響で、英語の子音の後に言う必要のない母音まで発音してしまう現象が見受けられる。例えば、great という英単語の発音をする際に、多くの中国人学習者は gereite と発音してしまい、日本人学習者の場合は gureito と発音してしまう傾向がある。解決策としては、子音そのものをはっきりと発音するトレーニングをすることである。具体的な方法として、1) 口の動きをネイティブスピーカーのそれとできるかぎり近づけること。2) 音の特徴を意識しながら、それぞれの音を練習する、などが挙げられる。

③英語発音におけるアクセントの指導法

英語のアクセントは単語でのアクセントと文でのアクセントに分けられる。特に英語の場合、「発音

よりもアクセント」と言われるほど、ネイティブスピーカーに通じる英語を話せるようになるためには、アクセントが重要であることは言うまでもない。

英語のアクセントは強弱型であるのに対して、日本語のアクセントは高低型である。また中国語のアクセントは、どちらかといえば高低型ではあるが、四声という変化に富んだ抑揚を持つ。従って、アクセントの習得においても、学習者の母語のアクセントの影響をうけやすいと考えられる。

単語レベルのアクセントにおいては、日本人学習者は日本語の母音が強く発音される影響を、中国人学習者は中国語四声の影響を受ける傾向がある。重要なポイントは、英単語には必ず一つ強くなる場所があることを常に意識させることである。

文でのアクセントでは、強勢のつく部分は山形でゆっくりと長くなり、強勢のつかない部分は谷形で速く短くなる。英語の文で強勢がおかれる部分は内容語で、聞き取りにおけるキーワードである。例えば、名詞、動詞、形容詞、疑問詞等がこれに該当する。内容理解にはあまり関係なく、強勢が置かれない単語は弱くなるので、聞き取りにくくなる。例えば、冠詞や人称代名詞、前置詞、接続詞、助動詞などがこれに該当する。文の強勢探しをしていると、文の後ろに強勢がつく場合は疑問形が多いことや、否定命令形では最初の Don't に強勢がつくことなど、強勢の位置と文の内容に相関関係あることがわかってくる [14]。

④歌唱による発音練習指導法

英語の発音記号と単語の発音練習などを、すでに存在する英語の歌を歌うことで練習する指導法もある。例えば ABC Song や学習内容と関連性の高い英文を学習者の好みの曲のメロディーにのせて英文の歌を作って、これらを反復して歌ったりすることで、英単語の発音の矯正や意味の理解に役立てようとする方法である。学習者のモチベーションを高く維持できるという意味では、ユニークで効果のある発音指導法の一つだと考えられる。英語以外の言語、例えば中国語の発音学習においても効果があるかどうかについては、慎重な検討が必要だと思われる。

3.3 英中発音指導法の比較

これまで述べてきた中国語と英語の発音指導法を表 6 に対照表としてまとめた。表 6 では、○はその指導法が適用できるという意味を、×はその指導法が適用できないという意味を、また△は要検討という意味をそれぞれ表す。この表からは、音節の基本構造に対する指導法および英語と中国語の母音を対比しながら行う指導法のみが両言語ともに適用でき、それ以外の指導法は共通に適用できないあるいは要検討となっていることが読み取れる。この結果から、教授者の視点から見れば、両言語に共通に適用できる発音指導法が少ないため、それぞれの言語独自の発音上の特徴を考慮した指導法に工夫（例えば、教授者が常に明確な発音の手本を学習者に対して示すよう心がけるなどの地道な努力）を加えることこそが、この問題の緩和に効果があることを示唆しているとも解釈可能ではないだろうか。

中国語も英語も言語のひとつである以上、必ず書き言葉の文字と話し言葉の音声の両方が伴う。たとえば、これまでの高校卒業までの英語教育は、受験対策に重きが置かれてきたことなどが原因で、発音教育があまり重要視されてこなかったことは周知の事実であろう。大学においては、読解や文法に重点

を置くことは大事ではあるが、言語教育全般を通して、一貫して発音教育あるいは正しくない発音の訂正などを必要に応じて行うべきなのではないかと考えるものである。そのために、外国語の教授者は、単なるその言語の正しい発音、および言葉の運用能力が高いたけだけでは十分ではなく、当該言語の発音に関する専門的な知識を有したうえ、適切な発音教授法を用いて受講者を指導することが求められるであろう。

しかしながら、それぞれの外国語の発音上の特徴に基づき、効果的に発音教育を行うことは、そう簡単なものではない。単純に受講者にただ指導者のまねをさせるだけでなく、発音の特徴、口の形の変化、要領などを正確に伝達することができなければ、受講者は母語の影響を克服できず、正確にその外国語の発音を身につけることはできないであろう。発音教育の初期段階における問題をうまく解決できなければ、その後の単語等の正確な発音ができなくなるなど、受講者への影響は測り知れない。本論のもう一つのねらいは、受講者の外国語学習の初期段階における発音教育の重要性を強調するところにある。

表6 英中発音指導法対照表

言語 指導法	中国語	英語
音節基本構造の指導法	○	○
声調付き母音の発音指導法	○	×
英中母音発音の対比指導法	○	○
母音後置による子音発音指導法	○	×
子音独立発音指導法	×	○
単母音の短, 長音区別指導法	×	○
アクセントの指導法	×	○
歌唱による発音練習指導法	△	○

4 終わりに

本稿では、中国語と英語の発音記号表記はほぼ同じであることにより、しばしば学習者に誤認識を与え、あるいは発音を互に混同する問題解決の試みとして、両言語それぞれの発音体系の特徴、および発音指導上の類似点と相違点を基礎的な比較検討を行った。その結果、両言語に共通に適用できる発音指導法が少ないことが判明した。また、それぞれの言語独自の発音上の特徴を考慮した指導法に工夫を加えることこそが、この問題の緩和に効果があることが示唆された。

今後の課題としては、以上の指導法の効果や適用範囲、およびその問題点などについて、統計的な手法などにより定量的に検討していく必要があると考える。また、歌唱による発音練習指導法の中国語への導入に関しては、中国語の声調、四声が音楽の中で反映されないため、最初段階の発音練習指導への適用には慎重な検討が必要と考えており、今後の課題のひとつにしたい。

引用・参考文献

- [1] LiYan, Comparison of English and Chinese Phonology in English Teaching, Journal of Bohai University (Philosophy and Social Science Edition), No.3, 2004.
- [2] The International Phonetic Association(IPA), <<http://www2.arts.gla.ac.uk/IPA/index.html>>
- [3] 许高渝 王之光,「论二十世纪我国的汉英语音对比研究」,浙江大学学报 人文社会科学版, 2002 年第 05 期
- [4] 论英语语音知识在大学英语听说教学中的作用,
<<http://www.cnki.com.cn/Article/CJFDTotal-NXDX20050100B.htm>>
- [5] 姚徐,「基于发音语音学的汉藏语辅音音位系统比较研究」,
<<http://www.nlpr.ia.ac.cn/2007papers/gjhy/gh146.pdf>>
- [6] 宋江录,「论英语语音知识在大学英语听说教学中的作用」宁夏大学学报 人文社会科学版, 2005 年 01 期
- [7] 楊 曉安,「日中单母音の音響音声学的分析」,北海道文教短期大学研究紀要,第 29 号,2005 55-64 頁
- [8] 陈军洲,「英语语音教学重在英汉对比」,怀化学院学报 2006 年 第 07 期
- [9] 张国强,「徐军 英汉语音对比初探」,河池学院学报, 2005 年 第 01 期
- [10] 趙秀敏, 富田昇,「飛天」中国語初級テキスト, 白帝社, 2005 年
- [11] 中国語発音学習教材, <<http://www.geocities.jp/cato1963/chinvu.html#top>>
- [12] 許国璋,「英語」,第一冊
- [13] 相原茂, 石田知子, 戸沼市子 共著,「中国語の文法書」, 同学社, 2002 年
- [14] 西蔭 浩子,『リスニング指導のカルテ ～ BOWwow Listening のすすめ』, <<http://www.obunsha.co.jp/argument/03-2/tokushu/sido3/main.html>>
- [15] 中国語学習書, <<http://www.chinese88.net/hatuon/06.htm>>
- [16] 中国語発音学習教材, <<http://www.geocities.jp/cato1963/chinvu.html>>
- [17] 中国語学習法, 中国語勉強法, <<http://www.chinese88.net/index.htm>>
- [18] 中国語の自主学习, <<http://fp-eye.info/index.htm>>
- [19] eigo21, <<http://www.eigo21.com/index.shtml>>
- [20] Eigoriki.net, <<http://eigoriki.net/>>
- [21] 英語講座, <<http://askcheeky.com/eigokouza.html>>
- [22] 英語の音声に関する雑記帳, <<http://englishphonetics.blogspot.com/2007/05/blog-post.html>>
- [23] 松澤喜好,「英語耳ドリル」,株式会社アスキー, 2005 年
- [24] 特徴 OF THE JAPANESE, <<http://www.scn-net.ne.jp/~language/pronounce03.htm>>
- [25] 監修、國弘正雄 千田潤一 「英会話・ぜったい・音読」 続・入門編、標準編 2004 年 3 月